

出羽三山・月山登山（1989m）



{牛首から姥沢への下りで}

期 日 2022年7月1日（金）～2日（土）

参 加 石川 誠 佳子

行 程

7/1日（金）晴

東京から上越新幹線 9:12 分発 新潟-羽越線酒田行に乗り継ぎ鶴岡 12:46 着

鶴岡駅から休暇村送迎バス 14:30 発-休暇村羽黒 15:30 着

東京駅待合室で寺島実郎さん（評論家）2.3 人の秘書と一緒に講演会に向かうのであろうか
お会いした翌日、日曜日のサンデーモーニングには出席されていた。

上越新幹線に乗るのは久方ぶり、昭和 32 年夏、中学生の時に昔の上越線に乗り、上野から一
人で新潟の母の弟さんの処に一人で出掛け、一週間ばかりお世話になっ
た思い出が蘇ってくる。



「ハナショウブ」

その時、古町商店街で開催されたお盆の夏祭り（佐渡おけさ）の
流し踊りを見物したのが心の中に強く思い出として残っている。
蒸気機関車が長い清水トンネルを抜ける時は、窓を閉めたが、煤煙が窓枠
から入りワイシャツが少し黒くなった様な気がした。当時、普通列車での
んびり 8 時間位掛かっていたのではないかと思う。

まさに川端康成の『雪国』が湯沢を舞台に作られていたのだと思うと夏で
はあったが感慨深いものを感じた中学校時代の思い出でもある。

その後は、会員の浜田君と春休み、スキーでも行くか雪を探しながら岩原で降り、スキーを楽しんだ思い出も懐かしい。

長い清水トンネルを抜けて湯沢、長岡と穀倉地帯を抜けて新潟に入る。

新潟駅からは、羽越線に乗換え鶴岡に向かう、日本海沿いに走る列車は山際に作られた線路に沿って走るが、途中にある家々は少なく、寒風吹きすさぶ冬の季節は生活も大変だろうなと思ってしまう。



「アオノツガザクラ」

新発田市は、ベルニナの小島さんの出身地と聞いた。新発田には昔、飯豊連峰の実川の遡行で雨に打たれながら、ビバークして湯ノ平温泉に降り新発田に戻って来た思い出がある。



塩引き鮭や笹川流れで有名な村上を過ぎ、温海温泉駅を過ぎると間もなく、山形第3の都市鶴岡だ。

駅構内で迎いのバスを待つこととなる。駅構内には学校帰りの鶴岡高校の生徒達が列車を待っていた。

{ニッコウキスゲ}

※笹川流れとは、澄み切った碧い海が美しく、日本屈指の透明度を誇る笹川流れ。11km 続く海岸では、日本海の荒波の浸食によりできた奇岩、岩礁や洞窟など、変化に富んだ風景が広がり、豪壮な景観は国指定の名勝及び天然記念物となっている。

7/2日(土) 晴

休暇村バス停 7:10 発-8:00 月山 8 合目着 8:15 分発-9:50 仏生池小屋 10:00-11:30 着月山頂上 11:55-12:20 牛首 13:30-14:25 リフト上駅 14:40-14:50 下駅-15:00-15:20 姥沢バス停 16:00 発-16:50 西川 i cバス停 17:45 発-18:24 山形駅 19:31 発-東京駅 22:24 分着其の後品川経由帰宅 23:30 頃帰宅

朝食は、弁当にしてもらい、休暇村前バス停を 7:10 に乗車、月山 8 合目へは 1 時間程の乗車バスは、下からの乗客を含め満員であった。

月山八合目の駐車場は、昨日の山開きを受けて、地元からの登山者でほ



ぼ満車状態であった。

登山届を提出、天気晴朗のんびりと歩き始める。周辺は、弥陀ヶ原湿原があり、周回コースもある。すぐ無量坂となり、穏やかなのぼりで助かる。

周りには既に雪解けを待ちかねて一斉に高山植物の多くの花々が



「シラネアオイ」



咲き誇り、思わずカメラに収めるが、歩を進めるごとに花々が咲いていて、レンズを向けてしまい、先の行程が思いやられる。

登山道は、緩い傾斜の稜線をのんびり進むことができ、出羽三山にお参りに来る白装束の方々も多い。一ノ岳、二ノ岳を巻いて月山9合目佛生池小屋に着く。

池の周りには仏塔（石板）が多く立っていて、流石に信仰の山であることが窺える。

多少雲も多いが、視界が利いて遠くの山々が霞んで見え、流石東北の山の奥深さを感じる。周

りには池塘も多く、残雪も多く残っていて白と新緑のコントラストが素晴らしい。

小屋で少し休憩して、先に進む、オモワシ山という名前の山が月山の前鋭峰として鎮座し、登山者にあれが月山かと思わせてその名称が付いた様だ。更に進むと行者返し、モックラ坂というのぼりがあり、残雪の踏み跡をのんびり辿ってゆくとやがて月山頂上(1984m)に着くことがで



きた。

頂上からの眺めは多少雲に、霞が重なり、稜線を吹き抜ける風は、暑くなった

身体を冷やし、移りゆく雲の流れは、周りの景色を幻想的にとらえて素晴らしく、久しぶりの登山が出来た事に感謝と感動を覚えた。

頂上に並んで月山神社が鎮座し、500円の祈禱料を支払いお参りして神主さんにお祓いをしてもらった。薄い和紙で作られた人型と小さなお札

「イワベンケイ」を戴き、人型の神紙は、それで体の悪い処をさすり側にある水ガメに居れお札は財布の中にでも納めて持ち帰る様言われた。

日頃無信心なので、その作法まで教えて貰う始末であった。

ちなみに当会の福沢君は2,3年前の出羽三山登山に置いて羽黒山、月山、湯殿山の三山でお祓いをお願いし、清めて貰ったと言っていたのでこれからの第二の人生は安泰であろう。

私は、昔車で鳥海山に登った帰りに、羽黒山だけはお参りしていたので、あと一つ湯殿山にも行かなければならないのだから、行けるのだろうか。今回も湯殿山周りで計画したが、地元の情報でも今年は雪が多く一部登山道も崩落している様で、通行禁止とのこと、月山ビジターセンターでも指導された。頂上で、朝飯代わりに宿で作って貰った弁当を食べ、

しばしの間、周囲の山々を睥睨する。

東北の山々は、北アルプスの山々と違い、ゴツゴツとした岩稜ではなく、



「コバイケイソウ」

東北特有のなだらかな山で、多くの残雪が心を和ませ特有の優しさ、のどかさを感じさせてくれる。

心休まる山でもある。しばし休憩し、整備された稜線をのんびり足元に注意しながら牛首へと下ってゆく。

途中で山形県警の方々が、足首を捻挫か、骨折したのであろうか、付き添ってゆっくり下って行くのと出くわした。雪渓上でヘリ救助を要請し、吊上げて救出する模様で気を付けたいものだ。途中の雪渓上でヘリが飛来し、ウインチでスルスルと隊員が降りてきて、みごとに吊上げて何もなかった様に周りいつもの静寂さに戻って行った。



牛首分岐からは雪渓どうしに1時間程

リフト乗り場の下ってゆく、雪渓は適度な勾配でキックステップで降りて行く、時折急な所ではスリップしながらも時折早くなる。猛暑日が続いている都会では、中々味わえない状況で、昔、グリセードで下山した山々などを思い起こさせてくれた。

リフト乗り場周辺では、月山特有の山スキーやスノーボードをしている人たちが、初夏の雪渓を楽しんでいた。夏リフトは、15分位の乗車で意外と長く、

下にはニッコウキスゲや姫ウツギの花々が、見送ってくれた。

月山姥沢のバス停は、暑い陽ざしの中、20分程歩いた処に在り、16時発のマイクバスで料金は500円は安い、40分程乗し高速道路の西川icバス停迄、暑い中1時間程待たされ、山形新幹線の始発駅である山形駅に到着する。

ちなみに山形新幹線は、先日就業30周年を迎えたとのことであった。

19:30分の東京行きに乗車し、のんびり帰宅の途に着いた。

しぶりに初夏、爽やかな登山を期待していたが、今年は全国的に猛暑日が続き、山も例外ではなく多少暑かったが、残雪と新緑の山、月山に登ることができた。



「佛生池小屋」



「雪溪が豊富」





「緩やかな雪渓を登って」



「月山頂上にて」



{月山神社}



(牛首から湯殿山方面への稜線)



(牛首から姥ヶ岳方面への稜線)



「ヘリによる救助風景」



「ウスユキソウ」



「クロユリ」



「ミヤマキンバイ」



「朝日連峰のの峰」



「登山用リフト」



「ヒメウツギ」